

編集人：ぶくぶくの会 〒564-0025 吹田市南高浜町 1-17-2A (総務)  
 TEL 06-6317-5598、FAX 06-6317-0936 Mail: so-mu@puku-2.com URL: www.puku-2.com  
 代表：馬垣安芳 編集長：上田かおり 1部 200円  
 年間購読料：個人会員 2000円 広報会員 (3部) 5000円  
 法人会員 1口 (5部) 10000円 賛助会員 (1部) 10000円  
 振替口座 00940-0-161341  
 「まねき猫通信」



もくじ

とくしゅう はる な わら こうりつこうにゆうしげんじょう  
 特集：「15の春の泣き笑い」-公立高入試の現状-2  
 こうさてん おうだん きけん みはら  
 リレーエッセイ：交差点の横断が危険-三原ひろみ-4  
 しんぶんつく かた きほんしせい いしづかなおと  
 新聞の作り方-ジャーナリズムの基本姿勢-石塚直人5  
 しょう しゃ せいじさんか しぎ でんた  
 障がい者の政治参加-さいたま市議・傳田ひろみ7

題字：  
 塩澤 文男  
 (しおざわ・ふみお)



にこまるねこ  
 絵：Kさん

トリの眼・ムシの目・ニャンコの目

1月17日は「阪神淡路大震災」21周年の記念日だった。この国のマスコミは「モード」が大好きで、8月6日・広島と同9日・長崎は「被爆モード」、同15日は「終戦記念日モード」でメディアが賑わう。今ではそれに「1・17阪神」が振り返るのか、過去から何を学ぶのか、今年の〇〇記念日はどんな意義があるのか、ほぼ何も問わないし報道しない。ましてや議論などない▲その背景には、この国の国民は「被害」の記憶は強いが「加害」や「責任」を余り意識しない、という事情があるようだ。被害をもたらし責任者は誰なのか、その責任は彼我の執れにあるか、それとも共犯関係か…意識的な問いは、まずない。故に答える努力もない。戦争も地震も原発災害も「なんとなく始まって、いつのまにか終わった」にすぎない。だから「死んだ人は可哀想。被害者に哀悼を」と繋がっていく。友人Nは「揺れ出して10秒は天災だがその後は全て人災だ」と語って逝った▲人災の責任が全的に回避される度に新たな国民統合が画策される。「地震の後には戦争がやってくる」と、故・忌野清志郎は14年も前に喝破していたのだった▲瀕死の双六問屋▲もうすぐ「フクシマ5周年」である。(ハギ)

一九八四年八月二〇日第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

# 「入試改革」のなかでの公立高校入試の現状

## たくさんの「15の春の泣き笑い」

こうこうもんだい かんが おおさかれんらくかい かたおかつぐお  
高校問題を考える大阪連絡会 片岡次雄

受験シーズンを迎えました。障がいのある生徒の中学卒業後の進路は、支援学校高等部だけではありません。「みんなと一緒に高校へ」そんな当たり前の思いをもった生徒と保護者が、可能性を少しずつ広げてきたからです。高校問題を考える大阪連絡会の片岡次雄さんに、入試制度や障がいをもつ生徒への配慮受験などについてまとめて頂きました。  
(編集部)

### はじめに

高校入試年度は、高校入学の年で表わし、2016年度中学3年生が受験するのは2017年度入試です。1学期や2学期に入試の話をするときには注意が必要となります。

### 2015年度入試

知的・身体を含め、「多くの目立つ障害児」が高校を受験しました。とりわけ7人の車椅子(バギー・ストレッチャーを含む)使用者を中心に、「配慮受験」をしました。

まばたきによる意思表示、雰囲気から意思表示を判断するしかない子を含め、代読・代筆で受験した子が5人いました。代読は介助員として同室する中学の先生、代筆は高校の先生がします。言語障害が強い子の場合、知らない高校の先生では

意思伝達が非常に不安です。点数を取ることが難しく、不合格が予想された5人は、定員割れであったため全員合格しました。

ここで取り上げた人数は、高校問題を考える大阪連絡会(考える会)が、特別に関係した人だけです。大阪府全体では、きりがなくいたくさんの「15の春の泣き笑い」があっただけです。

### 受験の配慮申請は早めに始める

大阪府教育委員会は、受験上の配慮に関する「まとめ冊子」を作つて、試験時間延長・代筆解答・介助者配置・拡大問題用紙・別室受験などを一覧表にまとめています。ただ次の注意が必要になります。  
●中学校は、「一覧表に書いていないものはダメ」と判断しやすい。

### 高校問題を考える大阪連絡会(考える会)

北摂連絡会は、2015年5月24日・箕面、7月18日・豊中、11月14日・茨木と、年3回の『北摂「障害」のある子どもの高校進学を考える学習会』を重ねています。

北河内連絡会は、2016年3月27日(日)13:30～、ラポールひらかたで『「障害」のある子どもの高校進学を考える学習会』を開きます。

北摂連絡会、北河内連絡会その他の人が集まって月1回の例会を開いているのが考える会です。考える会は事務所がありませんが、チラシ等で3人の連絡先を宣伝しています。この記事を見て相談連絡したい方は次の誰かにどうぞ。

連絡先

障大連(担当:西尾元秀)  
543-0072 大阪市天王寺区生玉前町5-33 大阪府  
障害者社会参加促進センター内 TEL:06-6779-8126 /  
FAX:06-6779-8109 / MAIL:npo-oil@mbd.nifty.com  
鈴木留美子(豊中市)  
TEL:090-9166-5575  
MAIL:rumikos-suzulann@shore.ocn.ne.jp  
片岡次雄(大阪市東淀川区)  
TEL:080-5333-2444 / MAIL:kata\_nif@nifty.com

### 「入試改革」の実体と弊害

今年のおおさか公立高校入試は、後期に一本化され、基礎・標準・発展3種類の入試問題、新形式調査書、自己申告書など、「政治主導の急激な入試改革」によって実施されるため、多くの混乱が予想されます。受験生にとって一番困るのは倍率です。予想が全くつきませ

昨年年度から新設されたエンパワメントスクールは、「よく分からないまま」入試に突入しました。面接・自己申告書・調査書記載事項による選抜の第1手順でまず合格者を決め、残り点数で決めるなど、「鳴り物入りで宣伝」されるはずの新しい学校です。ところが、作られていたポスターが突然なくなる、ホームページの説明部分でいつまでたっても「工事中」が

あるなど、新設学科にあり得ない不可解な事態が起こりました(2年目に入る今も異常事態は続いています)。今年(15年12月)は、これまで高校単位の希望状況が発表されていた中学3年生の進路希望調査が、全体状況しか発表されませんでした。パワハラで辞任した中原徹大阪府教育長に象徴されるように、「高校入試をめぐる異常事態」が相次いで起こっています。

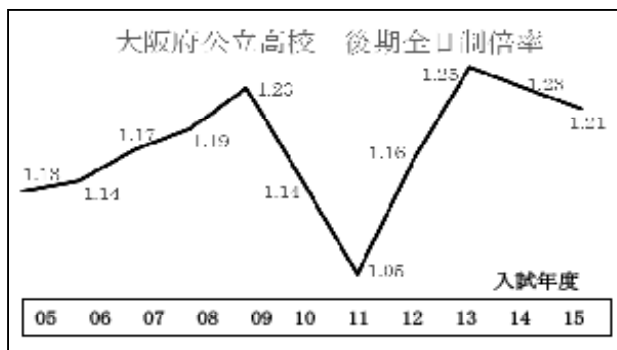
●一覧表にないもので、過去に許可された配慮はいろいろあります。一残念ながらすんなりとは認められませんが、問題の中に解答欄がセットされた

問題用紙、母親しか聞き取れないケースでの代読(中学先生)・通訳(保護者)・代筆(高校先生)などが認められています。普段の授業やテスト

●配慮申請手続きは、遅くても中学3年の2学期から始めるなどです。

グラフで分かるように、過去10年間で、09（H22）年度と「この3年間」が高倍率で、これは非常事態です。昨年12月の進路希望調査（受験希望調査）では、普通科1・27倍と報道されており、高倍率が続くことになりそうです。

後期倍率は比較的均等化されていきました。ところが今年度から、工業・商業・総合学科・普通科などほとんど全ての高校が一般入試（後期）になるので、「入試戦国時代」が始まり、本人とは関係のない倍率の偶然に左右される「泣き笑い」が多くなります。なお、全日制と区別される定時制は入試も別で、定員割れの可能性が高く、受験者全員合格が見込めます。入試倍率が1・2倍であれば、5クラス200人定員の高校に240人が受験したと



05=2005=H17年度 11=2011=H23年度 15=2015=H27年度

き、40人が不合格になります。大阪府全体では800人以上の不合格者が出ます。このように、点数を取ることが難しい知的障害児を筆頭に、いろいろな困難を抱える子どもを公立高校から閉め出す「入試改革」が、着々と進められています。

### 宝くじは買わないと当たらない

橋下大阪府知事以来、公立

高校をめぐる状況は悪くなるばかりです。私たちがよく行く府教委の教育振興室（入試担当の学事グループ、高校生担当の生徒指導グループ、自立担当の生徒指導グループ、自立支援コース担当の支援教育課など）の部屋の、半分を占める大きさで突然新設されたのが高校再編整備課です。橋下知事になって新しく『大阪の教育力』向上プラン』が策定され、次に『大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画』が出さ

れ、「強引な改革」が繰り返されてきました。「強引な改革の成果」は、大量の公立高校不合格者として実ってきています。「私学無償化」と「授業料無償化」は全く違うのを承知で、大阪維新の会は今も私学無償化を宣伝して、多くの生徒が私立高校に行くように誘導しています。他方で、全新生入生を対象とする「高校生活支援カード」や「障害を理由とする差別的解消の推進に関する法律」について「ともに学びともに育つ」学校づくりをめざして『が作られるなど、府教委の地道な取り組みもあります。高校に行った障害のある生徒もの申しに行くことなどいろいろありますが、行って後悔したという話は聞きません。小学校や中学校とは異なる子どもたちの新しい成長を見ることができません。

## 高校はすごく楽しいところ

大阪府立高校1年生 前田 蓮

僕は未熟児で仮死状態で生まれました。今は車椅子生活を送っていて、自分では字を書いたり食べたりすることもできないので、いつも誰かに手伝って

僕がなぜ高校へ行きたいと思ったかという、小、中と地域の学校へ行って、普通みんなも高校へ行くから、それが当たり前前



自分も行ったかったので、こ

の道を選びました。中学2年のときからいろいろな高校を見学に行きました。また、自分で書くことができないので、代筆と代読と時間延長という制度を使って受験しました。その結果、高校に入学することができました。

受験の時工夫していたことは、簡単な問題は確実に取ること、小論文を時間内に上手く書けるように何度も何度も練習したこととです。僕は口で説明するので上手く伝わるか不安だったけど、事前に高校の先生と打ち合わせして

僕が入った高校はすごく理解があり、一緒にできないからダメということは全くないし、配慮も完璧なのでとてもありがたいです。たとえば僕にはサポートーさんが付いてくれますが、それだと友達と仲良くなれないと思ったので、サポートーさんになるべく少なくして欲しいと担任の先生に言いました。「自分からサポートーを外してほしい」と言ったのは初めて。前田君の

あるお母さんが言いました。「宝くじは買わないと当たらない。高校も受験しなければ当たらない。宝くじは買いません。高校は受験しましょう。」